Seishin Campus

222

おもな記事

髙祖敏明学長挨拶

新任教員紹介

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急学生支援基金」へのご支援のお願い

グローバル教育環境整備募金ご寄付・ご支援のお願い

2019年度 聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞受賞者

2019年度聖心女子大学学長賞受賞者および団体

聖心女子大学独自の学生経済支援策について

など

聖心女子大学

University of the Sacred Heart, Tokyo

2020年（令和２年）６月24日発行

未曾有の困難を見直しと充実のチャンスに

２０２０年度への基本姿勢

聖心女子大学 学長
髙祖 敏明
KOSO Toshiaki

「未曾有の困難を見直しと充実のチャンスに」。これがパンデミックのさなかで始まった新年度に対する本学の基本姿勢です。

新型コロナウイルスの世界的感染拡大は、好むか否かに関わりなく世界が一体化している現実、国や地域、各組織の連帯と、人々の意識と生活の変革を抜きにしては危機管理もままならぬ現状を突き付けています。その感染拡大防止のため本学も、紅白の源平桃に彩られたキャンパスでの、晴れやかなはずの入学関連行事を取りやめざるを得ませんでした。

2019年度に教職員が知恵とアイデアを出し合い、同窓会役員や保護者の協力会役員の方々からもご意見を頂戴して策定した「聖心女子大学　中期目標・中期計画（2020～2024年度）」は、その前文でこう述べています。

「将来の社会像を見据えることが…予測困難な時代において、次世代を担う若い人々に必要とされるのは、一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し合う人間観、そして、幅広い知識や柔軟な思考力をもって世の中の課題を洞察し、社会に深く働きかけてゆく人間の知性といえます。聖心女子大学では、こうした「真の教養人」を育てるリベラル･アーツ教育を創立以来、変わることなく貫いてきました」。

これは､本学の建学精神「キリストの聖心（みこころ）に学び、自ら求めた学業を修め、その成果をもって社会との関りを深める」を、グローバル、デジタル、ソーシャルの進行によって大きく変容しつつある現代世界に生かす基本方針を示したものですし､近未来の超スマート社会（Society 5.0）に求められる「真の教養人」の育成を目指す、としたものです。

昨年11月に来日された教皇フランシスコは「青年との集い」の席で、若者たちに語られました。「何を手にしたか」より「それを誰と共有するのか」がもっと重要で､「何のために生きているか」と問うより「誰のために生きているのか」と問う方がもっと大切です、と。これも､「私たちの家」である地球に住む人類を家族とみて、連帯と共生を重んじる「真の教養人」に通じるお言葉だと思います。

本学は2019年４月に学部名称を、開学以来の「文学部」から「現代教養学部」に変えました。その根底には、上のような時代認識と問題意識があります。以来、現代教養学部の教育・研究・社会貢献それぞれの面での実質化を進めることが一大課題です。先の中期目標・中期計画は、教学・人事・組織・財務・環境・施設設備など大学を挙げてこの課題に取り組むにあたって７つの基盤的目標を立て､次のように相互に関連づけています。

まず､「大学運営のための人的・物的・資金的基盤の整備」を行い､「教育研究を活性化するための環境・支援体制の充実」と「学生の成長を見守り、支援する体制の充実」を進めて、教育研究やその担い手である学生、教職員を支援する仕組みを整えます。同時に、その枠組みの中で「アドミッション・ポリシーに適合した学生の安定的確保」を実現し､「本学の社会的責任の明確化とその実現」および「次世代社会を見据えた教育の再構築と教育研究力の向上」に力を注ぎ､「教育理念を実質化するための内部質保証体制の確立」を果たして、大学全体の活動や事業を常に点検・評価し、これをもとに必要な改善を随時進めるシステムを構築する、というものです。

このシステム構築は、本学の建学精神や教育理念を情報社会から超スマート社会へ移行していく時代状況に適応させるものですが、従来のやり方の踏襲のみでは対応できないことが明らかになってきました。例えば､これまでの教室での対面授業は、密室・密集・密接空間を当然の前提にしております。それが、目下のコロナ感染の危険を避けるために、教室空間に縛られず、グローバル、デジタル、ソーシャルの加速度的進行に調和した、ICTを活用する遠隔授業等を工夫し、提供するよう求められています。

これまで慣れ親しんできた当然の前提を崩し、新たな行動へ移ることには大きな困難が伴います。単に教育方法や評価などの手法のみでなく、私たちの意識や行動様式までも変え、ネット環境等のインフラを整備することも必要です。しかし、そうした方向にこそ未来が開けます。「未曾有の困難を見直しと充実のチャンスに」を基本姿勢とする所以です。パンデミックによりよく対応できるよう、物心両面での更なるご支援、ご協力をお願いいたします。

新任教員紹介

① メッセージ
② 専門分野
③ おすすめの本

英語文化コミュニケーション学科
ディビット・マックニール　教授
David MCNEILL

① Classrooms are one of our oldest and purest forums for communicating with each other, one reason why I' ve always loved them. They are places to stimulate creative thinking and discussion, and to ponder the novel and the strange as well as the old and the familiar. Students – and teachers – have a unique and precious opportunity to grow and to challenge our limitations, and to expand our understanding of what it means to be human beings. My own speciality is communications and journalism, an industry that is central to our complex modern world and which generates a lot of interest among our students. It is also, like education itself, constantly evolving and changing. I feel prividged to have one foot in each world – the university and the industry – and I look forward every year to seeing a room of new faces, eager to go on this educational journey with me.

② Journalism, Media, Popular culture.

③ Noam Chomsky, Edward S. Herman『Manufacturing Consent』Vintage 1995

英語文化コミュニケーション学科
マーニー・メイズ　講師
Marnie MAYSE

① "When I was a boy and I heard scary things in the news, my mother would say to me, look for the helpers. You will always find people who are helping." -Mr. Rogers
(The famous American host of the preschool television series Mr. Roger' s Neighborhood, which ran from 1968 to 2001.)
I have been thinking of this quote a lot lately, and I think we can all do a little bit to help. We will get over this virus eventually, and I am longing for that day. I miss seeing everyone at school. However, I hope we use this situation as an opportunity to do things in a different way and to learn new strengths that we did not know we had. This is my first year as a full-time teacher, and though it was not the start I was expecting - that any of us were expecting - I am finding helpers everywhere.

② English language education and technology

③ William Strunk Jr. E.B. White『The Elements of Style』Independently published 2020

史学科
大西 吉之 教授
ONISHI Yoshiyuki

①はじめまして。私はヨーロッパ史のなかでも大変マイナーなオランダ史を専攻しています。九州程度の小国ですが、チューリップや風車で有名ですし、日本とは歴史的に縁の深い国です。みなさんには研究の面白さを体感してもらうことはもちろん、確かな情報の掴み方を身につけてほしいですね。史学は雑多で欠陥だらけのデータを扱う学問ですから。

②近世オランダ社会経済史。当時の社会保障制度（救貧）に関する実証研究

③リン・ハント著・長谷川貴彦訳『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店 2019年

史学科
齋藤 久美子 准教授
SAITO Kumiko

①４月に史学科に着任しました。聖心の春を彩るシダレザクラやハナモモは見事でしたが、ぜひ来年は聖心の春に欠かせないグレーのスーツに身を包んだ新入生を見たいと思います。しばらく対面で会うことはかないませんが、大学を通してみなさんといろいろなつながりを構築できればと思います。

②西アジア史・オスマン帝国史

③杉田英明『日本人の中東発見』東京大学出版会 1995年

心理学科
井上 智義 教授
INOUE Tomoyoshi

①はじめまして。２年前に京都の同志社大学を早期退職して、秋田でのんびりした生活をしておりました。じつは、これまでに非常勤講師として２度の集中講義をさせていただいています。とっても良い雰囲気の少人数教育に魅了されました。伝統のある名門校、聖心女子大学の名に恥じないような教育研究に励みたいと思っております。

②社会的マイノリティの人たちへの心理支援と教育、バイリンガルの認知発達

③ Tom Jackson『Psychology: An illustrated History of the Mind from hypnotism to Brain Scans.』Shelter Harbor Press 2018

心理学科
中野 博子 教授
NAKANO Hiroko

①20年間の大学病院心療内科の現場心理士、19年間通信制の大学の教員を経て、４月に着任いたしました。２週目よりCOVID-19のため在宅勤務と、通常と違う経験をすることになりました。命さえも脅かされる困難な状況は誰にとっても不安なことですが、支援の観点から未曾有の体験の中にも新たな可能性を見つけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

②臨床心理学、発達心理学、心身健康科学、心身医学

③帚木蓬生『ネガティブ・ケイパビリティ　答えの出ない事態に耐える力』朝日新聞出版 2017

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急学生支援基金」へのご支援のお願い

日頃より本学の発展のためにご尽力を賜り誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本学では学生の皆様の安全確保を最優先に考え、キャンパス内への入構禁止措置や対面授業を取りやめオンラインによる授業を実施することといたしました。一方で新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、家計支持者の収入激減や学生本人のアルバイト収入の減少等で修学の継続が難しくなる学生が発生しているのも事実です。

本学といたしましては、学生の皆さまの実情に応じて必要な学生に必要な支援をさしのべ、経済的な理由により就学をあきらめなければならない学生を一人たりとも出してはならないというゆるぎない決意のもとに学生への支援策を講じることといたしました。

この支援策は、現在も継続して活動を行っています聖心女子大学振興基金（USH 基金）の寄付目的の中に新たに「新型コロナウイルス感染症拡大対応―緊急学生支援のために―」を加えることとしました。

つきましては学生たちが安心して学生生活を送ることができますよう、教職員や卒業生をはじめとして、ご支援をいただける個人・団体・法人の皆様にご協力を賜りたくお願い申し上げます。

聖心女子大学学長　髙祖 敏明

募集目的

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急学生支援金」の趣旨に基づく学生への緊急的な経済支援

募金金額

① 個人：一口１万円　② 団体・法人：一口３万円

募集期間

2020（令和２）年７月31日（金）まで

ご寄付のお申込み／お問い合わせ

■　聖心女子大学管理部財務課／電話：03-3407-5811（代表）
FAX：03-3407-5856
E-mail：e-zaimu@u-sacred-heart.ac.jp

■　お振込みは、WEB（＊）をご利用ください。
＊下記 URL にアクセスして、お手続きをお願いいたします。

https://www.u-sacred-heart.ac.jp/contribution
（「聖心女子大学 寄付金」で検索してください。）

聖心女子大学協力会へのご加入のお願い

聖心女子大学は創立以来、「愛あるところに神あり」をモットーに、正義と平和を愛し、学問研究を通じて自己を形成し、世界の一員としての連帯感と使命感を持った誠意ある女性の育成に努力をかさねて、これまでに多くの優れた卒業生を世に送り出してきたことは大変喜ばしく、また、心強く感じているところでございます。

本大学は日本で最初の新制女子大学の一つとして1948年に開学して以来72年目を迎え、学部から約27,000名、大学院から約960名の卒業生を世に送りました。聖心女子大学のこのような発展の背景には、内外における学校関係者をはじめ、父母ならびに一般識者の深いご理解と不断のご協力があったことはいうまでもありません。しかし激動する現代社会にあって、今や教育は抜本的な刷新とこれに伴う教育研究施設の整備拡充など財政的基盤の確立を必要としております。

大学がこのような要求を満たすために、私ども聖心女子大学の保護者は、伝統ある本学の教育研究の推進に重大な支障をきたさぬよう、進んでその財政的基盤の確立を支援したいと思います。

聖心女子大学協力会は1971年に設立された組織であり、在学生及び卒業生を会員とします大学の維持・後援会組織で、その活動は大学の諸事業への支援を中心としております。具体的に申しますと、図書館の学生用蔵書の充実や課外活動などへの支援、学生食堂の維持や保健センターへの助成などであります。

本学の学生が活き活きと充実した学生生活をこのキャンパスで過ごすことができますよう、ご支援の手を差し伸べていただきたく存じます。

つきましては何卒この趣旨をご賢察の上、本会会員になっていただきますようお願い申し上げます。

聖心女子大学協力会　会長　諸戸 精孝

グローバル教育環境整備募金　ご寄付・ご支援のお願い

募集期間〈継続募集中〉

2017年１月～2021年12月末まで

ご寄付の状況（目標金額10億円）

総額：２６３，０３３，５８２円
（2020年５月末時点）

寄付の手続きについて

WEB

下記 URL にアクセスして、グローバル教育環境整備募金のページをお読みになってお手続きください。寄付金の払込方法は、申込画面よりクレジット決済・コンビニ決済・銀行振り込みを選択できます。

https://www.u-sacred-heart.ac.jp/contribution

■ 税法上の優遇措置について

聖心女子大学への寄付金は、税制上の優遇措置（寄付金控除）をうけることができます。

学生に聞きました。

新しくなった大学の環境はいかがですか？

新しい学寮は、お部屋やリビング、食堂のほかに、ジムなど自由に利用できるフリースペースがあり、居心地のよさを感じます。

４号館では、ラメンサジャスミンを時々利用しています。大学のなかに、学食が１つ増えたことはとてもありがたいです。

新しい学寮では朝食も出してもらえるようになりました。自分で用意すると、手抜きになってしまうのですが、朝キチンと食べることでやる気と元気が湧きます。

東京在住の祖母が、毎年サークルの定期演奏会に来てくれていますが、南門の階段がつらくて昨年はあきらめかけていたところ、エレベーターが出来てとても喜んでくれました。

学寮のユニットは学年が縦割りで構成されているので、先輩との距離が近くなりました。学年や学科を越えて様々相談できることが嬉しいです。

４号館のブリット記念ホールでは難民問題や環境問題など、様々な講演会が行われています。学生も参加しやすく、機会も増えたことがよいと思います。

ご寄付くださる皆様へ

日ごろからのご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

この度、一定額以上ご寄付を賜りました方につきましては、寄付者銘板にご芳名を刻し、掲示させていただく準備を進めております。いずれの場合も、末永く聖心女子大学の歴史に記されます。

【設置予定場所（マリアンホール入口）】

【銘板イメージ図】

2019年度 聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞受賞者

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞は、建学の精神をよく体現し、模範となる学生生活を送ったと認められる卒業見込みの学部学生を褒賞するものです。2019（令和元）年度は、次の３名が受賞しました。

聖心会創立者
聖マグダレナ・ソフィア・バラ

英語英文学科
八木 美芳
YAGI Mihou

この度は、聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞を拝受いたしまして、大変光栄に存じます。今日まで支えてくださった全ての方々に感謝しています。

大学４年間を振り返ると、沢山の貴重な経験が出来ました。言語学の分野に惹かれ、勉強し続けたことで、さらに学びを深めたくなり、大学院進学することに決めました。学生会役員会・卒業委員会での活動からは、縦と横のつながりの大切さを実感しました。今後も大学で感じたことを忘れず、様々なことに目を向けていきながら新たなことに挑戦し続け、日々邁進していきます。

卒業論文発表会にて

学生会役員会の仲間と

スタディツアー（カンガルー島）にて

SHRETの仲間と

この賞を頂くという身に余る栄誉を大変嬉しく存じます。これまで支えて下さった先生方や職員の皆様、友人、そして家族に心から感謝申し上げます。

振り返ると、私は常に答えのない問いに向き合い続けた４年間でした。支援とは何か、政治に正義はあるのか、自然と人の共生とは何か。それらの問いはこれまでの幾多の経験、出会いによって深みのあるものとなり、真理を探究する素晴らしさを知る時となりました。

今後も大学院生として、聖心で得たかけがえのない財産を胸に、他者のため世界のために生きる女性になれるよう精進して参りたいと思います。

国際交流学科
岡田 絵里
OKADA Eri

教育学科
（初等教育専攻）
鳥丸 亜佳梨
TORIMARU Akari

この度はマグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞を拝受致しまして、大変光栄に存じます。

大学４年間では、地域社会と教育に焦点を当て、授業や課外活動を通じて学び、行動してきました。はなはなSDGsやM.S.S.S.を通じて、人と人が支え合うことの重要性を実感しました。復興支援に関する活動では、自らの無知を知り、視野を広げて学び続ける大切さに気が付きました。

活動を通じてたくさんの人と出会うことは、自らに向き合い、自身の可能性を広げる良い機会となりました。これからも一つ一つの出会いを大切にしながら、自ら学び行動していくことができるよう精進して参りたいと思います。

災害復興支援ボランティア

M.S.S.S. の仲間と

2019年度 聖心女子大学学長賞受賞者および団体

聖心女子大学学長賞は、学術研究活動、課外活動、社会活動等で特に顕著な成果を上げた学生または学生団体を褒賞するものです。2019（令和元）年度受賞団体および受賞者は次のとおりです。

自動車部

2019年度の全関東総合優勝、全日本総合優勝をご評価頂き、大変光栄に感じております。

部員が少ない為、他大学との合同練習に参加させていただき、練習方法を工夫し強豪校のライバル達に勝てるよう練習に励んで参りました。今後も女子大唯一の伝統ある自動車部として常にベストを尽くしていきたいと思います。

この賞を頂くにあたり、コーチ、OGの皆様、顧問の先生をはじめ活動を応援してくださる大学教職員の皆様、部員のご父兄の皆様に心より感謝申し上げます。この受賞を励みに、全関東戦、全日本戦共に２連覇を目指して精進してまいります。今後ともご声援のほどよろしくお願いいたします。

M.S.S.S.

私達M.S.S.S.は創立当初から続く歴史の長いボランティア部です。今年度は４つのセクションのボランティア活動だけではなく、新しい事にも挑戦してきました。その結果、国際キワニス団体様より青少年教育賞を受賞を頂き、更にご評価頂けた事を改めて総ヘッドとして誇りに思います。

学長賞を受賞出来ましたのは今年度の部員の活動力は勿論ですが、ここまで支えてくださった地域の方やボランティア施設の方々。何より素晴らしい歴史を創り上げ、そして継承してくださった先輩方のお陰であり、感謝の気持ちしかありません。この気持ちを忘れずに今後も精進して参ります。

Earth in Mind

2019年度の活動テーマ「ファッションと気候変動」に関する、Be*hiveでの死蔵服アート作品の設計・制作や、パタゴニア日本支社との協働によるWorn Wear College Tourへの参加等を高く評価して頂き、大変光栄に感じております。

今年度は好機にも恵まれ、より対外的な活動をメンバーそれぞれがやりがいを感じながら行うことができました。特に顧問の永田先生をはじめ、グローバル共生研究所の方々には沢山のアドバイスを頂き、団体として大きな成長を実感できた一年となりました。サポートしてくださった皆様には心より感謝申し上げます。

この受賞を励みに、これからも学生目線での活動を積極的に続けてまいりたいと思います。ありがとうございました。

JASMIN V

2019年11月に行われましたマーケティング戦略立案コンテストEDGE本選おいて、全41チームの参加の中、準優勝という成績を得られたことをご評価頂き、大変光栄に感じております。

私たちのチームは全日本空輸株式会社の「若者に、旅にお金・時間をより多くふりむけてもらうために、ANAがすべきことは?」という課題に対し、データを活用し、企画を提案いたしました。

このような活動が一般に知られるようになったことを嬉しく思い、また、後輩の方々にも是非継続して参加して貰いたいと願っております。企画立案に協力してくださった皆様、また多くの助言をくださった菅原健介教授に感謝申し上げます。この経験、また賞をいただいたことを励みに今後も精進してまいります。（人間関係学科３年　有志５名）

学生の活動

「学生団体はなはな SDGs が紙資源削減にむけた企画立案ワークショップに参加」

本学学生団体「はなはな SDGs」は国連が定めた持続可能な世界のための開発目標 SDGs の認知度、社会課題の解決のためのアクションを学内で広める活動を行っています。

本学が取り組んでいる「サステナブル・キャンパス」の実現のために、学内の授業で使用されている紙資源削減という目標を立て、目標実現の企画立案ワークショップに参加しました。

今後は講義内での紙使用量について調査を行い、CO_2排出量に換算（カーボンフットプリント）することを通して、大学における環境問題についてわかりやすく発信していきます。

Information

聖心女子大学では公式 Instagram アカウントを開設いたしました。Instagram をご利用の方は、ぜひフォローをお願いいたします。

聖心女子大学公式 Instagram
https://www.instagram.com/u_sacred_heart/

WEB OPEN CAMPUS! 各学科の先生方の模擬授業をご覧いただけます。

https://www.u-sacred-heart.ac.jp/examination/opencampus/weboc/

気候変動第３期展示はじまりました！「気候変動とスポーツの祭典」

4 号館展示スペース BE*hive

入場無料

展示期間

2020年 6 月15日（月）から
2020年 9 月30日（水）まで （予定）

開館時間

月～土：
10:00am~5:00pm

※感染症拡大防止の観点から、臨時休館及びバーチャル展示へ変更となる場合がございます。
詳細は、研究所 HP よりご確認ください。

グローバル化の時代だからこそ、立ち止まって考えたい…BE＊hive では、地球規模課題の「気候変動」をテーマに、2019 年 4 月より特集トピックを変えながら、変容と行動を促す活動を展開しています。第 1 期は「ファッション×気候変動」、第 2 期は「女性と社会的弱者にとっての気候変動」。そして 2020年 6 月15日からは第 3 期「気候変動とスポーツの祭典」をテーマに 9 月末まで開催します。世界中のアスリート達の活躍に期待が寄せられる東京オリンピック・パラリンピック。実は、地球規模の環境問題への取り組みにも世界が注目しています。地球にやさしい大会とは？私たちの持続可能な社会とは？オリンピック選手からのメッセージと共にお待ちしております。

そして、2020年 5 月22日、聖心女子大学は「気候非常事態宣言（CED）」を表明しました。この宣言は、5 月現在、世界30か国、約1,500の自治体と議会や大学などが、環境問題に関する意志を表明したものです。本学の宣言には、国連等が標榜する普遍的な理念への支持のみならず、食やゴミなどのキャンパス・ライフにおけるアクションも盛り込まれています。

ポスト・パンデミック（アフター・コロナ）時代においてこれまで以上に重要性を増す持続可能な社会を目指して、皆様とともに課題解決に向けて共に歩んでいければと願っております。

聖心女子大学同窓会 宮代会

日本国内の 6 の聖心姉妹校の 7 同窓会と共に日本聖心同窓会（JASH）を形成し、世界に広がる35ヶ国の聖心姉妹校の同窓会と共に世界聖心同窓会（AMASC）として結ばれています。

宮代会便り

聖心女子大学同窓会宮代会は、母校とのつながりを大切に、さまざまな活動を行っております。

南門を上がった左手にある宮代会館では、宮代会の各種行事、ボランティア活動、お稽古（学生参加可）、会合等で多くの会員にご利用いただいております。地下一階の事務室では、同窓生スタッフが会員の名簿の管理、会館利用のサポートをしております。

大学管理棟一階にある宮代ショップでは文房具、履歴書、ファイル等の校名入りグッズを始め日用品も揃えております。

毎年、「宮代会奨学金」を博士課程前期一年生一名に、「宮代会特別奨学金」を大学四年生三名に給付。研究に励む学生を支援し母校への貢献を続けております。

学生の皆様には、卒業時までに終身会費を納入していただく事で宮代会員としてお迎えすることになります。会員になられると、宮代会館のご利用、会報誌の送付などが受けられます。幹事や理事となって、同窓会活動に幅広くご参加いただく事もできます。

今年度から開設いたしましたホームページにて、詳細をご覧いただけます。
URL：https://miyashiro-kai.com/（HP へは右 QR コードからお入りいただけます）

新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様、感染拡大により生活に影響を受けられた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

聖心女子大学では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、以下のとおり、支援策を講じることとなりました。緊急支援奨学金（給付・貸与）の新設や従来からある給付型奨学金の拡充、学費納付期限の延長などを、一年間の特例措置として実施してまいります。

引き続き、皆様のご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

聖心女子大学独自の学生経済支援策について

1、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急支援奨学金（給付）の新設について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、学生生活費（学費と生活費の合計）に充てる家計の収入減、アルバイト等の収入減などによって、修学継続が困難な状態となった学生に対し、返済を要しない緊急支援奨学金（10万円給付、200名まで）を新設。5月14日から順次申請を受け付け、6月上旬から給付を開始しました。

2、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援奨学金（貸与）の新設について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、学生生活費（学費と生活費の合計）に充てる家計の収入減、アルバイト等の収入減などによって、一時的に資金が不足する学生に対して、緊急支援奨学金（5万円、または10万円の貸与、50人まで）を新設。5月14日から順次申請を受け付け、6月上旬から貸与を開始しました。

3、経済的困難者への給付型奨学金の拡充

従来からある経済的困難者への給付型奨学金（振興基金修学支援奨学金、エリザベス・ブリット基金奨学金等）の拡充を予定。詳細は決定次第、在学生専用サイト「Sophie」に掲載します。

4、学費延納制度

所定の手続きにより延納が認められた学生については、前期学費の納付期限を10月31日（土）まで延長。後期学費について2021年2月1日（月）まで延長。

勇気を持って。孤独や疲れを感じたとしても、
あなたは独りで闘っているのではありません。

祈りと謙遜が大きな困難に打ち勝つこと、
最も深い恵みを引き寄せることを確信しましょう。

St. Madeleine Sophie Barat
聖マグダレナ・ソフィア・バラの言葉

※言葉は、日本聖心同窓会JASHが制作された日めくりカレンダーより引用いたしました。
JASHホームページURL：https://www.jash316.com/

発行 聖心女子大学 〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1 TEL 03-3407-5811（代表）編集 聖心女子大学 広報・社会連携部 広報課 発行 年3回（6・11・3月）
無断転載・複製を禁じます